

南太平洋に桜散る―
幻の叔父・山岸昌司を追って

第四章

乙飛六期 故 山岸昌司 様
姪 平林 峰子

平成二十八年三月二十九日 靖国神社で行われた「英霊に贈る手紙」の奉納式で、叔父と同期だった故中西義男さんの実弟の中西明さんとお会いすることが出来た。ひと月前前電話で約束したとおり奉納式の後、一緒に神奈川県横須賀市追浜を訪ねました。

追浜は横須賀海軍航空隊があった町で、豫科練誕生之地と書かれた慰霊碑が建てられています。京浜急行追浜駅で、海原会理事の平野さんと合流して、三人で慰霊碑がある貝山緑地へと向かいました。横須賀海軍航空隊の跡地には、日産自動車の工場が建設されており、今は当時の様子を窺うことはできません。貝山緑地は工場地帯の真ん中にある緑豊かな丘で、この日はあいにく小雨が降る中、頂上へ向かう道を登っていくと、丘の中腹あたりに豫科練誕生之地記念碑が横須賀の街を見下ろしながら静かに建てられていました。道路の反対側には、甲飛鎮魂碑もあり、碑の裏側には海原会の多くの同窓会員の名前も刻まれており、海軍航空

の歴史を偲ぶことができる場所となっています。頂上まで行くと展望台があり東京湾を一望することが出来ました。眼下に広がる横須賀の街を眺めながら叔父も同じ風景を眺めたのだろうか、少しだけ感傷的な思いにふけりながら緑地を後にしました。

翌日は平野さんの防衛大の同期生の色川喜美夫さんにお会いし、横須賀の海上自衛隊艦隊司令部を案内していただきました。基地内には多くの自衛艦が停泊しており、長野の山国育ちで間近で船を見たことがない私は、その大きさに圧倒されていました。

旧海軍では、この基地に停泊している艦船とは比べ物にならないような大型空母から戦闘機が飛び立っていったと聞き、叔父もそうだったのかと感慨深いものがありました。

基地を後にし、横須賀市内にある三笠記念館を訪ねました。戦艦三笠の船内はこれが本当に船の中と思いう程広くて驚きました。そして、三崎漁港まで行き昼食をすませ、横須賀中央駅まで送っていただき平野さんとお別れして中西さんと二人で東京へ向かいました。

来週靖国神社で行われる慰霊祭でお会いしましょう」と約束し中西さんは大阪へお帰りになり、私は千葉の姉の家へと向かいました。

四月三日の朝千葉の都賀駅で戦史

家の吉野さんと待ち合わせ海上自衛隊館山航空基地へ車を走らせました。

途中、広島在住の姪に勧められた大房岬を訪ねました。大房岬には首都を防衛するために多くの要塞が作られ、その多くが戦跡として残されています。今では公園となっていますが、中にある洞窟からは今でも兵隊さんの靴音が聞こえてくると言われており、うっそうとした林の中は、まるでジャングルの様で何だか怖くなり一人で行ける場所ではないなと思いつつ早々に大房岬を後にして館山基地に向かいました。

館山航空基地は残念ながら中に入らないうちに見学はできませんでしたが、叔父はここで「艦攻の実用機教程を学んだ。」と吉野さんが話してくれました。遠くに海上自衛隊の滑走路が見え、そこでは大きなヘリコプターが離着陸の訓練をしていました。

次に陸上自衛隊木更津駐屯地に向かいました。木更津では、奈良のAさんと合流し陸上自衛隊の方の案内で資料室を見学する事ができました。戦時中の写真や遺品が沢山並んでいました。また、平成二十六年九月に発生した木曾御嶽山の噴火の時は、ここ木更津に駐屯している第一ヘリ

コプター団から救助に向かったといいました。木更津駐屯地の見学が終わり帰路についた時、吉野さんが突然 途中、茂原にある乙六期生の後

藤継男さんの実家に立ち寄ってみませんか」と言われました。

私は、瞬間後藤継男さんと言われ、どなたなのか分からずとまどってしまいました。すぐに予科練雄翔館に展示されていた六期生の写真に、叔父の遺影とともに後藤さんの写真が並んでいたのを思い出しました。

少し道に迷いましたが、地元の方にお聞きしたら、以前牛乳屋さんをやっていたあの家では」と教えていただきました。実家を訪問すると後藤さんの奥様が、突然の訪問に驚かれた様子でしたが、事情をお話すると涙を流して喜んで下さいました。仏壇にお線香をあげそっと手を合わせました。仏壇の上には後藤さんの遺影がありそれは雄翔館に飾られていた写真と同じで優しい目をして遠くを見ていました。

しばらく話をしていると、息子さんご夫婦が買い物から帰って来られ、少し驚いた様子でしたが、訳をお話すると、遠くからわざわざ有り難うございます。私は七十四才だが父の顔を知らない。生れたときは父は戦死の後だった。」と悲しそうに仰っていました。私は叔父の事を思い出して目頭が熱くなるのを感じながら

「この方も戦争の犠牲者なのだ。」と心の中で思いました。

もう少しお話を聞きたかったのですが、日も暮れてきたので急いでお暇することにしました。

四月六日靖国神社で行われた豫科
練雄飛会の慰霊祭に出席しました。

そこで私は、第三章で紹介させてい
ただいた安曇野出身の米倉康男さん
の遺族で妹さんの高橋銀子さんと息
子さんに初めてお会いすることがで
きました。高橋さんの息子さんは靖
国神社本殿にお参りできたのは感激
でした。これからも慰霊を続けて行
きたいです」と言われていました。

来年も是非お会いしましょう」と
約束してお別れしました。この日、
靖国神社境内は大勢の人がお参りに
来て賑わっていました。わずかに、
残った桜が花吹雪となって別れを惜
しむかのように舞い散っておりまし
た。